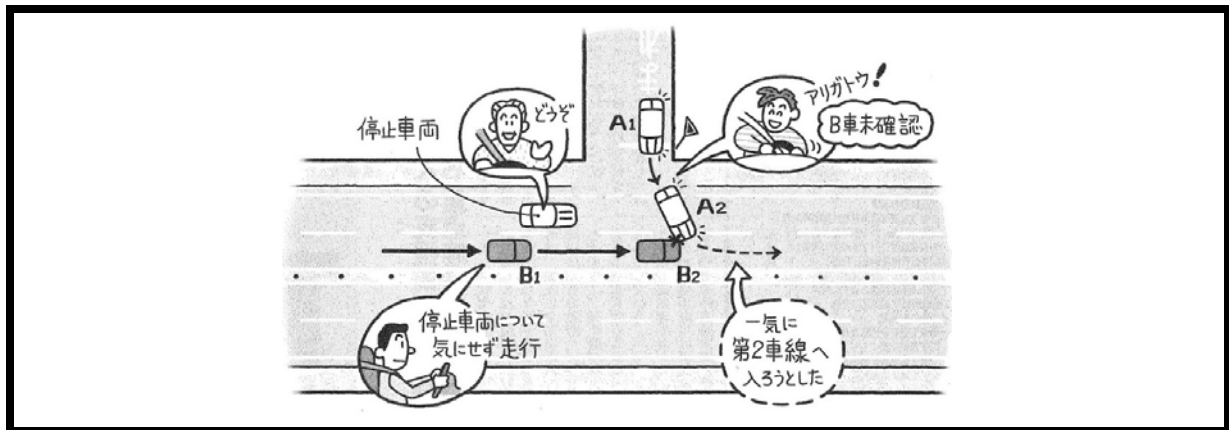


## ■事故の概況



事故類型：出会い頭

発生日時：平日 午後3時 雨

当事者A：普通乗用車 20歳代 男性

当事者B：軽乗用車 30歳代 男性

## ■ 事故の概要

平日の午後3時過ぎ、小雨ですが見通しが悪くなるほどではありませんでした。Aは市街地のセンターラインのない脇道から片側2車線の県道へ出るつもりで、信号機のないT字路交差点を左折しようとしていました。しばらく交差車両をやり過ごしていましたが、1台の自動車が停止し道を譲ってくれたので左折を開始しました。Aは左折後すぐにその先を右折する予定だったため、大回り左折で第2車線まで入ったところへ、同車線を直進してきたB車と出会い頭に衝突してしまいました。Aからは停止車両の陰になりB車が見えず、事前の確認ができませんでした。

## ■ 事故から学ぶ

たとえ道を譲られても、停止してくれた車両と道路端の間や、他の車線から別の車が来ていないかどうか確認する必要があります。特に二輪車が四輪車の脇をすり抜けてくる場合の事故が多く、譲られてもあわてて発進したり、歩行時は駆け出したりしないようにしましょう。譲られた結果事故が起きた場合、安全確認が不十分だった本人の責任が大きく、譲った人を責めるわけにはいきません。

歩行者の場合は、横断道路であっても、停止してくれた車両以外はあなたのことに気付いていないかもしれません。譲ってもらった相手には、親切心からの結果が仇になってしまい、後悔させてしまうことになります。もちろん相手を信用するなというわけではありませんが、最終的には自分自身で安全確認をすることが大切です。